

多民族国家であるマレーシア

生命環境科学研究科
生物資源科学専攻 M2
小松 昇平

1. マレーシアは多民族国家である

マレーシアは多民族国家である。主な民族構成は、マレー系(67%)、中華系(25%)、インド系(7%)、その他(1%)である。そのため、一つの国に居ながら様々な宗教、食文化、言語と接する事ができる。

マレー系は原住民であり、主にイスラム教を信仰している。国内ではマジョリティであるため、マレーシアはイスラム国家の一つとされている。このため、モスクが点在し、空港や大学などの公共施設にイスラム色が強く反映されている。

一方、中華系とインド系は、マレーシアに移民として来た民族である。中華系はマレー系に次いで多く、クアラルンプールやペナンなど、都市部では中華料理の屋台やレストランが多い。一方、インド系も時折、見受けられ、リトルインディアのようにインド系が集まる地区もある。

2. 抱える課題

一方で、民族間の課題を抱えている。現在、マレー系を優遇する政策が行われており、中華系やインド系は進学や就職で不利な状態が続いている。例えば、マレー系と中国系が同じレベルの学業成績を取得して奨学金に応募した場合、マレー系の方が受かるという事例が多い。

また、生活習慣や宗教の違いから、それぞれの民族間の交流が少ない。このため、それぞれの文化は共存するものの、交わる事がない。

3. 多民族国家であるうえの利点

このように、複数の民族と関わる背景から多くのマレーシア人はマルチリンガルである。どの民族も国語であるマレー語はもちろんの事、イギリスの植民地であった歴史から英語を扱う事ができる。中華系は、中国語を、インド系はタミル語を日常で用いている。また、海外志向も強いいため、留学する学生も多いと言われている。留学先は、エジプトなどのイスラム国家、中国や台湾、インドである。

4. 参考文献

マレーシア基礎データ、外務省(2016年2月23日アクセス)

Yuji Kanamaru(2015) Ethnic Accommodation and Democracy in Multiethnic Counties
Comparing the Cases of Malaysia and Singapore, 82, Hosei Kenkyu pp.1091-1118